

動物解剖生理学Ⅱ

(授業概要)

動物解剖生理学Ⅰでは未習の範囲を学習。後さらにⅠから発展させて、既知の項目をより深く理解すると同時に組織学分野の知識習得も心がける。

科	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	35

目標

前期

解剖生理Ⅰより継続する項目を学習。1学期で一通り解剖学と生理学の履修範囲が完了する

後期

今までの履修項目につき、補習としてより詳細な内容を追求すると同時に、身体各領域を組織学的視点から考察、理解を深めていく。

授業計画

- 1回 泌尿器系（1）腎臓の構造
- 2回 泌尿器系（2）腎臓の機能
- 3回 泌尿器系（3）その他泌尿器の構造と機能
- 4回 骨・骨格（1）骨の構造
- 5回 骨・骨格（1）骨格の構成
- 6回 筋肉（1）筋肉の構造と機能
- 7回 筋肉（2）骨格筋
- 8回 上皮組織（1）上皮組織の構造
- 9回 上皮組織（2）上皮組織の機能
- 10回 腺組織・支持組織（1）腺組織と支持組織の構造
- 11回 腺組織・支持組織（2）腺組織と支持組織の機能
- 12回 肝臓（1）構造と機能（組織形態含む）
- 13回 肝臓（2） //
- 14回 膵臓（1）機能と機能（組織形態含む）
- 15回 膵臓（2） //
- 16回 前期期末試験
- 17回 前期期末試験返却・解答
- 18回 消化器（補足1）代謝論（1）
- 19回 消化器（補足2）代謝論（2）
- 20回 泌尿器（補足1）電解質バランス
- 21回 泌尿器（補足2）酸/塩基平衡
- 22回 機能と組織（1）
- 23回 機能と組織（2）

- | | |
|------|-------------------------------|
| 24 回 | 機能と組織（3） |
| 25 回 | 機能と組織（4） |
| 26 回 | 機能と組織（5） |
| 27 回 | 機能と組織（6）身体各組織の機能（補足）と組織学面の修得。 |
| 28 回 | 機能と組織（7）あるいは上記各項目の予備日。 |
| 29 回 | 機能と組織（8） |
| 30 回 | 機能と組織（9） |
| 31 回 | 機能と組織（10） |
| 32 回 | 機能と組織（11） |
| 33 回 | 機能と組織（12） |
| 34 回 | 後期期末試験 |
| 35 回 | 後期期末試験返却・解答 |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
自作のテキストによる講義。

きょうざい 教材
特になし。学校推薦の参考書程度。

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験80%、 じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

動物繁殖学

（授業概要）

犬猫の繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩、および新生子管理を習得する。特に、繁殖に関わる内分泌（ホルモン）の働き、および発情のメカニズムを理解するとともに、繁殖における遺伝学を学ぶ。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	35

目標

- 1 学期
- 犬・猫の繁殖器官、卵子および精子形成を理解する。
- 2 学期
- 生殖機能調節に関わるホルモン、発情徴候と発情周期、妊娠と受精、遺伝子と器官発生、先天異常を理解する。

授業計画

- 1 回
- ガイダンス・生殖とその分類
- 2 回
- 雄犬（猫）の繁殖器官
- 3 回
- 雌犬（猫）の繁殖器官
- 4 回
- 卵子形成・卵胞と黄体・排卵①
- 5 回
- 卵子形成・卵胞と黄体・排卵②
- 6 回
- 卵子形成・卵胞と黄体・排卵③
- 7 回
- 精子形成①
- 8 回
- 精子形成②
- 9 回
- 生殖機能調節に関わるホルモン①
- 10 回
- 生殖機能調節に関わるホルモン②
- 11 回
- 生殖機能調節に関わるホルモン③
- 12 回
- 発情徴候と発情周期①
- 13 回
- 発情徴候と発情周期②
- 14 回
- 前期復習
- 15 回
- 前期試験
- 16 回
- 前期試験返却、解答・解説
- 17 回
- 発情徴候と発情周期③
- 18 回
- 妊娠と受精①

- 19 回 妊娠と受精②
- 20 回 妊娠と受精③
- 21 回 分娩
- 22 回 遺伝子と器官発生①
- 23 回 遺伝子と器官発生②
- 24 回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25 回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26 回 去勢・不妊手術
- 27 回 新生子の解剖生理学① 胎子循環
- 28 回 新生子の解剖生理学② 新生児の生殖器
- 29 回 新生子の先天性異常（奇形）①視診で発見される先天性疾患
- 30 回 新生子の先天性異常（奇形）②成長につれて発見される先天性疾患 I
- 31 回 新生子の生理的機能① 体温・肺・消化・排便排尿
- 32 回 後期復習
- 33 回 後期試験
- 34 回 後期試験返却、解答・解説
- 35 回 新生子の生理的機能② 初乳・溶血

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習問題

きょうざい
教材

インターズー 基礎動物看護学 1 「動物繁殖学」、ファームプレス 動物看護コアテキスト 2 巻 動物のからだの構造と機能 第 2 版 「第 11 章 子どもをつくる」、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物繁殖学

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

特になし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

人と動物の関係学

（授業概要）

人と動物の関係について、その歴史と現在の状況について学ぶ。動物と暮らすことの恩恵、適切に関わるための知識（人と動物の福祉、動物介在介入、虐待等）についての理解を深め、動物看護師として社会の人々を支援できる力を育てる。

科	動物看護師学科	きょういん 教員	中野 あや
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

前期

人と動物の関わり方の歴史と現在の状況について学び、ペットが人に与える影響について理解する。
日本と欧米の動物の在り方について、その違いを説明できるようになる。

後期

動物介在介入について理解し、動物福祉の観点から活動を評価できるようになる。
人と動物の福祉の観点について学び、適正飼育や虐待についての知識を深める。

授業計画

- 1回 人と動物の関係学：ガイダンス
- 2回 なぜペットを飼うのか（4章－1）
- 3回 ペットの効果、現状（4章－2）
- 4回 人と動物の関係の歴史（1章－1）
- 5回 動物と宗教（1章－1）
- 6回 動物と日本の文化（1章－2）
- 7回 日本と西洋の動物との関わり方の比較（1章－3）
- 8回 前期前半まとめ、復習
- 9回 現代の動物の使用状況（2章－1）
- 10回 人の健康への動物の効果（2章－2）
- 11回 動物介在療法の歴史（3章－1）
- 12回 動物介在介入の定義（3章－1）
- 13回 学校飼育動物の現状（3章－3）
- 14回 動物介在介入のまとめ
- 15回 前期のまとめ、復習
- 16回 前期期末試験
- 17回 前期期末試験返却、解答
- 18回 動物の役割（使役場面、高齢者、子供）（4章－5）

- 19 回 学校飼育動物の目的と実際、子供と動物（3 章－3）
- 20 回 動物介在活動を実施するために（3 章－2）
- 21 回 ふれあい教室の実際
- 22 回 動物虐待の定義と背景（5 章－1）
- 23 回 動物虐待の対処と法規制（5 章－2,3）
- 24 回 動物虐待・動物利用を考える
- 25 回 後期前半まとめ、復習
- 26 回 ペットの現状について（4 章-1,2）
- 27 回 ペットと幸せに暮らすために（4 章－3）
- 28 回 ペットへの愛着と依存（4 章－4）
- 29 回 ペットロス（4 章－5）
- 30 回 多頭飼育の問題（5 章－4）
- 31 回 高齢化による飼育困難（5 章－6）
- 32 回 ベテリナリーソーシャルワーク（5 章－7）
- 33 回 後期まとめ、復習
- 34 回 後期期末試験
- 35 回 後期期末試験返却、解答

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義

きょうざい 教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4 巻、授業用プリント、資料動画

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん しゅっせきりつ じゅぎょうたいど
期末試験 80%、平常点 20%（出席率、授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

参考図書の紹介、休憩時間の質問対応

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

あり

動物病理学

(授業概要)

病気とは何かについて理解するとともに、各疾患の原因や成り立ち、経過を理解する。そして、動物の病気を動物の体の内側から理解し、適切な看護方針の立案に寄与できる動物看護師の育成を目指す。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	35

目標

1 学期

生体反応と病気の成り立ち、生体の回復力、細胞や組織に生じる変化を学び、理解する。

2 学期

増殖と修復、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、及び先天性疾患を学び、具体的な疾患の病理メカニズムを理解する。

授業計画

- 1 回 ガイダンス・第 1 章 病理学とは
- 2 回 第 2 章 生体反応と病気の成り立ち ①病気の原因
- 3 回 第 2 章 生体反応と病気の成り立ち ②バイタルサイン
- 4 回 第 3 章 生体の回復力 ①ホメオスタシス・神経系
- 5 回 第 3 章 生体の回復力 ②ホメオスタシス・内分泌系
- 6 回 第 3 章 生体の回復力 ③ホメオスタシス・免疫系
- 7 回 第 4 章 細胞や組織に生じる変化 ①細胞傷害・細胞の変化
- 8 回 第 4 章 細胞や組織に生じる変化 ②壊死とアポトーシス
- 9 回 第 4 章 細胞や組織に生じる変化 ③萎縮と低形成
- 10 回 第 5 章 増殖と修復 ①細胞の増殖と組織の変化・化生
- 11 回 第 5 章 増殖と修復 ②組織の修復と治癒
- 12 回 第 5 章 増殖と修復 ③創傷治癒・骨折の治癒
- 13 回 第 6 章 循環障害 ①血液循環とリンパ液循環・水腫
- 14 回 前期復習
- 15 回 前期試験
- 16 回 前期試験返却、解答・解説
- 17 回 第 6 章 循環障害 ②充血とうっ血・出血と止血
- 18 回 第 6 章 循環障害 ③DIC・血栓・塞栓・虚血・梗塞・ショック

- 19回 第7章 炎症 ①炎症の原因と役割
- 20回 第7章 炎症 ②五大主徴
- 21回 第7章 炎症 ③炎症の経過と治癒
- 22回 第7章 炎症 ④炎症に関わる細胞とケミカルメディエーター
- 23回 第7章 炎症 ⑤急性炎症
- 24回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26回 第7章 炎症 ⑥慢性炎症
- 27回 第8章 免疫 ①免疫反応
- 28回 第8章 免疫 ②抗体産生
- 29回 第9章 腫瘍 ③免疫応答の異常（アレルギー）
- 30回 第9章 腫瘍 ①細胞の増殖分化とその異常
- 31回 後期復習
- 32回 後期試験第
- 33回 後期試験返却、解答・解説
- 34回 第9章 腫瘍 ②腫瘍の定義と分類、転移
- 35回 10章 先天異常 遺伝的・環境要因

授業の方法

講義、問題演習

教材

ファームプレス「第3巻 動物看護コアテキスト 動物の疾病と予防および回復 第2版、動物病理学」、文栄堂「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠『病理学』 動物病理学総論 第3版」、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 動物病理学

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

自分や家族が病気に罹患した経験を具体化し、病学的変化を客観的に理解するように努める。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物薬理学

(授業概要)

代表的な薬物の体内動態、作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。さらに、薬物の用語・単位や投与量の計算方法を身に着ける。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	70

目標

1 学期

薬理作用、薬物動態、投与方法を理解するとともに、薬物の投与量の計算方法を身に着ける。

2 学期

各種疾患に対する薬物の薬理作用を理解するとともに、各種薬剤の種類を把握する。

授業計画

- 1 回 ガイダンス・薬理学とは
- 2 回 薬物の取り扱い
- 3 回 単位・用語・計算問題
- 4 回 薬理学の基礎：薬理作用
- 5 回 薬理学の基礎：薬物動態・投与方法
- 6 回 薬理学の基礎：副作用
- 7 回 神経系に作用する薬剤：麻酔薬
- 8 回 神経系に作用する薬剤：鎮痛薬
- 9 回 神経系に作用する薬剤：鎮静と抗けいれん薬
- 10 回 呼吸器系に作用する薬物
- 11 回 循環器に作用する薬物：降圧薬
- 12 回 循環器に作用する薬物：強心薬、泌尿器に作用する薬物
- 13 回 消化器に作用する薬物：制吐薬と抗潰瘍薬
- 14 回 前期復習
- 15 回 前期試験
- 16 回 前期試験返却、解答・解説
- 17 回 消化器に作用する薬物：止瀉薬と瀉下薬
- 18 回 消化器に作用する薬物：肝疾患治療薬

- 19回 オータコイドとは①
- 20回 オータコイド②レニン・アンジオテンシン
- 21回 代謝・内分泌の薬物：糖尿病と甲状腺障害治療薬
- 22回 代謝・内分泌の薬物：ステロイドホルモン
- 23回 血液・免疫系に作用する薬物：抗貧血薬と止血薬
- 24回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26回 血液・免疫系に作用する薬物：抗炎症薬
- 27回 血液・免疫系に作用する薬物：免疫抑制薬
- 28回 化学療法薬：消毒薬・殺虫薬
- 29回 化学療法薬：抗菌薬
- 30回 化学療法薬：抗真菌薬
- 31回 後期復習
- 32回 後期試験
- 33回 後期試験返却、解答・解説
- 34回 化学療法薬：抗蠕虫・原虫薬
- 35回 化学療法薬：抗腫瘍薬

授業の方法

講義、問題演習

教材

ファームプレス「第3巻 動物看護コアテキスト 動物の疾病と予防および回復 第2版、動物薬理学」、
コンパニオン・アニマルのファースト・ステップ薬理学、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム
準拠教科書2巻 動物薬理学

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

身近に接する医薬品の成分や薬理作用にアンテナを張り巡らし、注意深く確認する。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物感染症学Ⅰ

(授業概要)

動物の疾病において多くの割合を占める感染症全般を理解する。そのためには、最低まずその原因となる細菌、ウイルス、真菌、プリオン、寄生虫についての基礎知識が必要であり、また、感染への対処としては、免疫学や公衆衛生学への理解がないと望めない。これらを広く学習する。

科	動物看護師学科	きょういん 教 員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教 員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	2 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	70

もくひょう
目 標

前期

感染症を学ぶ上で最も基本となる、細菌、ウイルス、真菌、プリオンについて学ぶ。同時に感染症の予防に欠かせない免疫とワクチンの基礎を学ぶ。

後期

感染症に対する行政による具体的な対策を学び、予防や診断に重要な各種検査法を知る。同時に、感染学のなかでも特異的位置を占める、寄生虫について理解を深める。

じゅぎょうけいかく
授 業 計 画

- 1 回 感染症学序章
- 2 回 細菌学総論（１）（細菌の分類）
- 3 回 細菌学総論（２）（細菌の構造、細菌の遺伝子）
- 4 回 細菌学総論（３）（細菌の感染と発症）
- 5 回 細菌学総論（４）（細菌の増殖と代謝）
- 6 回 ウィルス学総論（１）（ウィルスの構造、代謝）
- 7 回 ウィルス学総論（２）（ウィルスの分類）
- 8 回 ウィルス学総論（３）（ウィルスの増殖、感染）
- 9 回 真菌学総論（真菌の構造、代謝）
- 10 回 真菌学総論（真菌の分類、感染）
- 11 回 プリオン総論（プリオンの構造と感染）
- 12 回 免疫学概論（１）（自然免疫と獲得免疫）
- 13 回 免疫学概論（２）（免疫寛容と免疫記憶）
- 14 回 免疫学概論（３）（アレルギーとワクチン）
- 15 回 前期期末試験
- 16 回 前期期末試験返却・解答
- 17 回 動物感染症対策について（農林水産省行政）
- 18 回 動物由来感染症対策について（厚生労働省行政）
- 19 回 微生物検査（１）（バイオハザードとバイオセーフティ）
- 20 回 微生物検査（２）（消毒と滅菌）
- 21 回 微生物検査（３）（細菌検査法）

- 22 回 微生物検査（４）（ウィルス検査法）
- 23 回 微生物検査法（５）（真菌検査法と薬剤感受性試験）
- 24 回 寄生虫学（１）（総論・原虫類１）
- 25 回 寄生虫学（２）（原虫類２）
- 26 回 寄生虫学（３）（線虫１）
- 27 回 寄生虫学（４）（線虫２）
- 28 回 寄生虫学（５）（線虫３）
- 29 回 寄生虫学（６）（扁形動物１）
- 30 回 寄生虫学（７）（扁形動物２）
- 31 回 寄生虫学（８）（扁形動物３・外部寄生虫１）
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 後期期末試験返却・解答
- 34 回 寄生虫学（９）（外部寄生虫２）
- 35 回 １年の振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自作のテキストによる講義。

きょうざい
教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

公衆衛生学Ⅱ

(授業概要)

基本的には公衆衛生学Ⅰの続きとなる。環境衛生に加え、院内衛生や人の精神衛生面における動物の役割を理解する。また公衆衛生学Ⅰで学んだ他の項目についても、復習や補足部分の追加により対処していく。

科	動物看護師学科	きょういん 教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

前期

環境衛生を学ぶ。最近ことに世界中で注目されている項目であるため、国家試験においても重視される可能性が高い。知っておくべき基本部分を、確実に習得しておく必要がある。

後期

院内衛生と検疫に関するシステムを学習する。また、以前に修得した公衆衛生学Ⅰの各項目も復習と内容の補充を行ない、全般的理解を図る。

授業計画

- 1回 環境衛生とは・生態系と生物多様性（環境アセスメント / 生物多様性）
- 2回 環境衛生の概念・地球規模的環境問題（1）（地球温暖化など）
- 3回 地球規模的環境問題（2）（オゾン層破壊 / 酸性雨）
- 4回 地球規模的環境問題（3）（野生生物種の減少）
- 5回 水の衛生（1）（上水・下水）
- 6回 水の衛生（2）（水質汚濁）
- 7回 水の衛生（3）（水系感染症）
- 8回 生活環境問題（1）（シックハウス症候群）
- 9回 生活環境問題（2）（化学物質による障害）
- 10回 生活環境問題（3）（騒音・悪臭）
- 11回 廃棄物問題（1）（廃棄物全般 / 感染性廃棄物1）
- 12回 廃棄物問題（2）（感染性廃棄物2 / 廃棄物と動物病院1）
- 13回 廃棄物問題（3）（廃棄物と動物病院2 / 放射線と特定廃棄物）
- 14回 衛生動物（衛生動物全般）
- 15回 前期期末試験
- 16回 前期期末試験返却・解答
- 17回 仕事環境の衛生（1）（病院における衛生処理1）
- 18回 仕事環境の衛生（2）（病院における衛生処理2）
- 19回 動物検疫（1）（検疫のシステム）
- 20回 動物検疫（2）（イヌの輸出と輸入）
- 21回 精神衛生面における動物の存在（1）（ペット・ロス問題）

- | | | |
|------|------------------------------|------------------------|
| 22 回 | 精神衛生面における動物の存在（2）（AAA と AAT） | |
| 23 回 | 精神衛生面における動物の存在（3）（精神疾患と動物 1） | |
| 24 回 | 精神衛生面における動物の存在（4）（精神疾患と動物 2） | |
| 25 回 | （復習）重要な人獣共通感染症（1） | } 復習・補足 （国家試験対策用・演習有り） |
| 26 回 | （復習）重要な人獣共通感染症（2） | |
| 27 回 | （復習）重要な人獣共通感染症（3） | |
| 28 回 | （復習）重要な人獣共通感染症（4） | |
| 29 回 | （復習）食中毒（1） | |
| 30 回 | （復習）食中毒（2） | |
| 31 回 | （復習）食中毒（3） | |
| 32 回 | 後期期末試験 | |
| 33 回 | 後期期末試験返却・解答 | |
| 34 回 | 国家試験と公衆衛生学（学習のポイント） | |
| 35 回 | 予備日 | |

授業の方法

自作のテキストによる講義。

教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

実務経験と授業科目の関係

獣医師会の立場から行政と共働で、食中毒と環境衛生問題に長く関わった実績を持つ。あり。

基礎健康管理学 II

(授業概要)

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

科	動物看護師学科	教員	楠本
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	35

目標

前期

食中毒や応急処置などを学び、いざというときに対応できるようになる

後期

ペットロスや安楽死などを理解し、飼い主のサポートができるようになる

産業動物、実験動物、展示動物における役割、歴史、管理方法などを学んだうえで、各種ごとの福祉について理解する

授業計画

- 1回 授業について
- 2回 状態確認の方法
- 3回 応急処置 出血
- 4回 応急処置 やけど
- 5回 応急処置 熱中症
- 6回 応急処置 熱中症
- 7回 応急処置 骨折
- 8回 応急処置 骨折
- 9回 応急処置 ショック
- 10回 応急処置 ショック
- 11回 応急処置 ショック
- 12回 応急処置 眼球突出
- 13回 応急処置 感電
- 14回 応急処置 感電
- 15回 応急処置 誤食
- 16回 応急処置 誤食
- 17回 応急処置 毒物
- 18回 応急処置 毒物

- | | |
|-----|-----------------|
| 19回 | ペットロス |
| 20回 | エンゼルケア |
| 21回 | グリーフケア1 |
| 22回 | グリーフケア2 |
| 23回 | 安楽死 |
| 24回 | 投薬1 |
| 25回 | 投薬2 |
| 26回 | 看護ゼミ一斉実習 |
| 27回 | 看護ゼミ一斉実習 |
| 28回 | 輸液1 |
| 29回 | 輸液2 |
| 30回 | 輸血 |
| 31回 | 各動物における福祉1 産業動物 |
| 32回 | 各動物における福祉2 実験動物 |
| 33回 | 各動物における福祉3 展示動物 |
| 34回 | 後期試験 |
| 35回 | 試験返却 |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
座学、実習、グループワーク

きょうざい 教材
コンパニオンアニマルの健康管理学、自作プリント

ひょうか ほうほう 評価の方法
きまつしけん 期末試験80%、出席率 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法
特になし
じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
動物病院にて身につけた、応急処置、救命処置をもとに体験談を提供していく。

臨床動物看護学

(授業概要)

愛玩動物看護師として働く自覚をもつ。

看護視点を意識して、看護動物に合わせた看護計画・実践を行う。

科	動物看護師学科	きょういん 教員	梶 英美子
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	70

目標

前期

動物看護過程の理解・診療記録への記載ができる。

後期

ライフステージ・看護動物の状態に合わせた動物看護過程の展開ができる。

授業計画

- 1 回 チーム医療の理解・看護師の役割・看護目標設定
- 2 回 クリティカルパスについて
- 3 回 クリティカルパス作成
- 4 回 QOL：臨床における動物の QOL の重要性
- 5 回 QOL：痛みのメカニズム・体験
- 6 回 QOL：痛みの管理
- 7 回 看護過程とは 1
- 8 回 動物看護過程 2（アセスメント）
- 9 回 動物看護過程 3（看護診断）
- 10 回 動物看護過程 4（看護計画）
- 11 回 動物看護過程 5（看護実践・評価）
- 12 回 疾病別看護動物のアセスメント
- 13 回 疾病別看護動物の看護診断
- 14 回 疾病別看護動物の看護計画
- 15 回 前期復習
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期期末試験返却・解説
- 18 回 動物看護業務（成長過程・経過別看護）
- 19 回 動物看護業務（若齢期）
- 20 回 動物看護業務（老齢期）
- 21 回 動物看護業務（急性期）
- 22 回 動物看護業務（回復期）
- 23 回 インターン 1
- 24 回 インターン 2

- 25 回 動物看護業務（慢性期）
- 26 回 動物看護業務（終末期・ターミナルケア・在宅医療）
- 27 回 動物看護業務（グリーフケア）
- 28 回 動物看護業務（看取り・エンゼルケア）
- 29 回 動物看護業務（急性期看護計画）
- 30 回 動物看護業務（慢性期看護計画）
- 31 回 後期復習
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 後期期末試験返却・解説
- 34 回 医療者グリーフケア・グループワーク
- 35 回 チーム医療における看護師の役割まとめ・グループワーク発表

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

座学・実習・グループワーク

きょうざい 教材

エドワードプレス・自作プリント

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%
 提出物 10%
 じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

テキストの予習・復習

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

あり。臨床現場で見られる内容を反映・自身の体験を提供。

動物疾病看護学 A

(授業概要)

動物看護臨床学の総論を学ぶとともに、各論として消化器疾患、内分泌疾患、神経・整形外科疾患についての具体化した知識を習得するとともに、治療に関する必要な処置を理解し、チーム医療の一員として適切な看護を提供する方法を修得する。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	105

目標

1 学期

動物看護の基礎知識、動物看護過程、呼吸器疾患、循環器疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。

2 学期

消化器疾患、内分泌疾患、神経・整形外科疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。さらに、事例に基づく動物看護過程の展開について学び、実践時の基本的能力を養う。

授業計画

- 1 回 動物看護臨床学総論・基礎知識
- 2 回 動物看護臨床学総論・動物看護過程
- 3 回 動物看護臨床学総論・健康期
- 4 回 動物看護臨床学総論・急性期・回復期
- 5 回 動物看護臨床学総論・慢性期・終末期
- 6 回 呼吸器疾患の動物看護Ⅰ・呼吸器疾患とは・症状
- 7 回 呼吸器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 8 回 呼吸器疾患の動物看護Ⅲ・肺炎・肺水腫・胸水・犬伝染性気管支炎・猫の上部起動疾患
- 9 回 呼吸器疾患の動物看護Ⅳ・気管虚脱・短頭種気道症候群・猫喘息・肺腫瘍
- 10 回 循環器疾患の動物看護Ⅰ・循環器疾患とは・症状
- 11 回 循環器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 12 回 循環器疾患の動物看護Ⅲ・うっ血性心不全・僧帽弁閉鎖不全症・動脈管開存・心室中隔欠損
- 13 回 循環器疾患の動物看護Ⅳ・犬糸状虫症・拡張型心筋症・肥大型心筋症・心室性不整脈
- 14 回 消化器疾患の動物看護Ⅰ・消化器疾患・症状
- 15 回 前期復習
- 16 回 前期試験

- 17回 前期試験返却、解答・解説
- 18回 消化器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 19回 消化器疾患の動物看護Ⅲ・猫の歯肉口内炎・歯周病・巨大食道症・胃炎・胃拡張捻転症候群
- 20回 消化器疾患の動物看護Ⅳ・パルボウイルス感染症・炎症性腸疾患・腸リンパ管拡張症・肝炎
- 21回 内分泌疾患の動物看護Ⅰ・内分泌疾患とは・症状
- 22回 内分泌疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 23回 内分泌疾患の動物看護Ⅲ・糖尿病・低血糖症・甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症
- 24回 内分泌疾患の動物看護Ⅳ・副腎皮質機能亢進症・副腎皮質機能低下症・高カルシウム血症
- 25回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26回 V2 一斉インターンシップ実習
- 27回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅰ・神経・整形外科疾患とは・症状
- 28回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 29回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅲ・水頭症・特発性てんかん・ウォブラー症候群
- 30回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅳ・馬尾症候群・神経系腫瘍・膝蓋骨脱臼・前十字靭帯断裂
- 31回 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅰ・右後肢断脚術を実施後急性期の動物看護
- 32回 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅱ・前十字靭帯断裂犬の術後回復期の動物看護
- 33回 後期復習
- 34回 国試問題、後期試験
- 35回 後期試験返却、解答・解説、国試問題

授業の方法

講義、問題演習

教材

インターズー「認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学各論」
イラストでみる犬の病気、イラストでみる猫の病気

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

動物看護学で得た机上の知識を、ATH ゼミで実務されている先輩看護師と照らし合わせて、勉学にフィードバックする。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物疾病看護学 B

(授業概要)

皮膚疾患、免疫介在性疾患、眼疾患、生殖器系疾患、泌尿器系疾患、および腫瘍性疾患の基本的な病態生理の知識を学び、治療に関する必要な処置を理解し、チーム医療の一員として適切な看護を提供する方法を修得する。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	70

目標

1 学期

皮膚疾患、造血器・免疫介在性疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。

2 学期

眼疾患、生殖器系疾患、泌尿器系疾患、腫瘍性疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。さらに、統一動物看護認定試験対策も実施する。

授業計画

- 1 回 ガイダンス・感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患とは
- 2 回 皮膚疾患：膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、天疱瘡
- 3 回 皮膚疾患：ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー
- 4 回 皮膚疾患：外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症
- 5 回 皮膚疾患：毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ
- 6 回 造血器・免疫介在性疾患：バベシア、腎性貧血、血友病
- 7 回 造血器・免疫介在性疾患：FIP、FeLV、FIV
- 8 回 造血器・免疫介在性疾患：免疫介在性溶血性貧血、ネギ中毒、リンパ腫
- 9 回 造血器・免疫介在性疾患：白血病、肥満細胞腫
- 10 回 眼疾患：結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎
- 11 回 眼疾患：角膜潰瘍、ブドウ膜炎 緑内障、白内障、核硬化症
- 12 回 眼疾患：流涙症、チェリーアイ 異所性睫毛
- 13 回 生殖器疾患：潜在精巣、前立腺炎 前立腺肥大
- 14 回 前期復習
- 15 回 前期試験
- 16 回 前期試験返却、解答・解説
- 17 回 生殖器疾患：子宮蓄膿症、偽妊娠、異常分娩、膣脱、犬ブルセラ症、乳腺炎、乳腺腫瘍

- 18 回 泌尿器系疾患：急性腎障害、慢性腎臓病、腎盂腎炎
- 19 回 泌尿器系疾患：蛋白喪失性腎炎、尿路感染症
- 20 回 泌尿器系疾患：尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患
- 21 回 泌尿器系疾患：尿道閉塞症、レプトスピラ症、排尿障害
- 22 回 腫瘍疾患とは
- 23 回 がん動物の看護Ⅰ：がん診断の基礎知識
- 24 回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25 回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26 回 がん動物の看護Ⅱ：主要疾患に対する治療
- 27 回 がん動物の看護Ⅲ：栄養管理・疼痛管理
- 28 回 緊急疾患：交通事故、感電、熱傷、熱中症
- 29 回 緊急疾患：中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー
- 30 回 腫瘍・緊急疾患のまとめ
- 31 回 動物看護統一認定試験対策Ⅰ
- 32 回 後期復習
- 33 回 後期試験
- 34 回 後期試験返却、解答・解説
- 35 回 動物看護統一認定試験対策Ⅱ

授業の方法

講義、問題演習

教材

インターズー「認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学各論」
イラストでみる犬の病気、イラストでみる猫の病気

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

動物看護学で得た机上の知識を、ATH ゼミで実務されている先輩看護師と照らし合わせて、勉学にフィードバックする。

実務経験と授業科目の関係

あり

検査学

(授業概要)

病院勤務においてはルーチンである臨床検査に関する知識と技術について学ぶ。検査はいわば診断治療の「切り口」であり、ここでまず正しい判断が為されなければ後の診療にも狂いが生じる。従って、知識面においても技術面においても十分な裁量が必要とされるため、その基本をまず着実に習得することが重要である。

科	動物看護師学科	きょういん 教 員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教 員 の 実 務 経 験	○
たいしょうねんじ 対 象 年 次	2 年	ねんかんたんいじかん 年 間 単 位 時 間	35

目 標

前期

血液検査に関する知識と技術について学習する。臨床現場において日常最も多く実施される検査であるため十分に時間を使って確実に習得する。

後期

その他の臨床検査について学ぶと同時に、実際の症例データから各疾患の特徴や予後を診断する訓練を行う。

授 業 計 画

- 1 回 バイタルサインと全身検査（1）
- 2 回 バイタルサインと全身検査（1）
- 3 回 臨床検査の基礎
- 4 回 採血と血漿・血清の分離
- 5 回 全血球検査（CBC）と貧血
- 6 回 全血球検査（CBC）と貧血
- 7 回 血液塗抹標本
- 8 回 血液塗抹標本
- 9 回 Ht と凝固能
- 10 回 血液生化学検査（総論）
- 11 回 血液生化学検査各論（1）（総論・血漿蛋白・肝機能）
- 12 回 血液生化学検査各論（2）（肝臓・膵臓・腎臓）
- 13 回 血液生化学検査各論（3）（血中脂肪その他）
- 14 回 血液生化学検査各論（4）（血液ガス分析・免疫学的検査）
- 15 回 血液背化学検査各論（5）（その他）
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期期末試験返却・解答
- 18 回 尿検査（1）（検体採取法・検体の処置）
- 19 回 尿検査（検査手順・尿沈渣の分析）
- 20 回 尿検査（尿沈渣の分析）

- 21 回 糞便検査（手技と検体の取り扱い）
- 22 回 糞便検査（観察と分析）
- 23 回 糞便検査（その他の検査法）
- 24 回 細胞診検査と病理組織検査（1）
- 25 回 細胞診検査と病理組織検査（2）
- 26 回 遺伝子検査（1）
- 27 回 遺伝子検査（2）
- 28 回 （補足）その他の検査（1）（心電図）
- 29 回 （補足）その他の検査（2）（膣スミア）
- 30 回 （補足）その他の検査（3）（眼科系・耳鼻科系）
- 31 回 （補足）その他の検査（4）（眼科系・耳鼻科系）
- 32 回 （補足）その他の検査（5）（皮膚科系）
- 33 回 （補足）その他の検査（6）（皮膚科系）
- 34 回 後期期末試験
- 35 回 後期期末試験返却・解答

あるいは予備日

授業の方法

自作のテキストによる講義。

教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物医療コミュニケーション I

(授業概要)

動物園の歴史、社会的役割（種の保存、環境教育、調査研究、娯楽）、動物園・水族館の展示手法、動物飼育にあたっての基礎知識（飼育あらし、動物福祉、エンリッチメントなど）を理解する

科	動物看護師学科	きょういん 教員	梶 芙美子
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2 年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

前期

日常健康管理に関する正しい知識を身につけ、言語・非言語コミュニケーションを意識し、正しく相手に伝える事ができる。

後期

飼い主指導やスタッフとの連携など、チーム医療を意識した行動がとれる。また、飼い主に寄り添った容態説明が行える。

授業計画

- 1 回 愛玩動物看護師としての役割の認識・身だしなみについて
- 2 回 動物医療コミュニケーションについて（コミュニケーション能力）
- 3 回 クライアントエディケーションについて
- 4 回 クライアントエディケーション（フィラリア症についてグループ練習）
- 5 回 クライアントエディケーション（フィラリア症についてグループ発表）
- 6 回 クライアントエディケーション（ノミダニ予防についてグループ練習）
- 7 回 クライアントエディケーション（ノミダニ予防についてグループ発表）
- 8 回 動物看護学における獣医療面接について
- 9 回 獣医療面接の基本的技法
- 10 回 獣医療面接を用いた事前問診 1
- 11 回 獣医療面接を用いた事前問診 2
- 12 回 獣医療面接を用いた具体的な対応（受付対応）
- 13 回 受付業務 3（電話対応）
- 14 回 受付業務 4（クレーム対応）
- 15 回 前期復習
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期期末試験返却・解説
- 18 回 チーム医療としてのコミュニケーション能力
- 19 回 インフォームドコンセントについて
- 20 回 コミュニケーション理論 1（優位感覚・ペーシング）
- 21 回 コミュニケーション理論 2（リフレイミング）

22 回 動物の容態説明
 23 回 インターン 1
 24 回 インターン 2
 25 回 日常健康管理に関わる飼い主教育について
 26 回 日常ケア指導
 27 回 日常ケア 2（デンタルについてグループ練習）
 28 回 日常ケア 3（デンタルについてグループ発表）
 29 回 クライアントエディケーション（グループワーク課題決定・計画）
 30 回 クライアントエディケーション（グループワーク課題練習）
 31 回 後期復習
 32 回 後期期末試験
 33 回 後期期末試験返却・解説
 34 回 クライアントエディケーション（グループワーク発表）
 35 回 クライアントエディケーション（グループワーク発表）

授業の方法

座学・実習・グループワーク

教材

エドワードプレス・自作プリント

評価の方法

期末試験80% 提出物 10% 授業態度10%

授業外での学習方法

テキストの予習・復習

実務経験と授業科目の関係

あり。臨床現場で見られる内容を反映・自身の体験を提供。

動物外科看護学実習

(授業概要、目的)

動物病院の手術時、もしくは外科分野において、動物看護師の役割を理解し、必要な知識、技術を習得し、現場で滞りなく、動けるようにする。

科	動物看護師学科	教員	三輪
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	35×4コマ

目標

前期

手術チームでの動物看護師の役割と準備、術前準備、麻酔、鎮静処置、術中補助・術後管理について理解し、現場で動けるようになる。

後期

縫合材料と縫合法、外科器具、創傷管理と包帯法、救急救命法について理解し、現場で動けるようになる。

授業計画

- 1回 手術チームにおける動物看護師の役割、手術室に入る。
- 2回 手指の消毒法
- 3回 手の拭き方
- 4回 ガウンとグローブの装着法
- 5回 術前検査と術前手続き、手術準備室と手術室の準備
- 6回 動物の術前準備、麻酔の準備
- 7回 手術時のポジショニング、消毒の準備
- 8回 術野の消毒法、ドレープの装着
- 9回 麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割、適応とリスク、特有の問診
- 10回 麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査、注射麻酔・鎮静に関わる手技
- 11回 吸入麻酔に関わる手技、導入時のリスクと対処、麻酔監視項目
- 12回 麻酔記録の作成法
- 13回 術中、術直後、術後動物看護の役割と必要な動物看護援助
- 14回 縫合材と手術器具
- 15回 直接補助と間接補助を行う動物看護師
- 16回 直接補助の業務、間接補助の業務
- 17回 縫合糸の分類、特徴
- 18回 縫合糸のサイズ、一般的な縫合糸の種類と特徴

- 19 回 縫合糸の包装、縫合糸の代替品縫合糸の選択基準
- 20 回 縫合針、一般的な縫合法
- 21 回 一般的な手術器具と使用法、手術器具セット
- 22 回 成形外科器具とその使用法、歯科器具の名称と使用法
- 23 回 手術器具の手入れ方法とその維持管理、滅菌準備
- 24 回 手術器具の滅菌、代表的な医療機器
- 25 回 創傷の分類
- 26 回 手術後の創傷管理
- 27 回 ドレッシング法実施時の創傷管理
- 28 回 包帯法、褥瘡の予防
- 29 回 生命兆候のアセスメント
- 30 回 動物の呼吸を楽にする姿勢
- 31 回 循環管理
- 32 回 保温
- 33 回 止血法
- 34 回 気管内挿管
- 35 回 心肺蘇生処置・その他の救急救命処置に関わる状態

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

2コマ座学、2コマ実習の予定です。適宜グループワーク、手術を入れる。

きょうざい
教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験 50% (実技)、じゅぎょうたいど 授業態度 50%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

レポート

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物看護学実習

(授業概要)

愛玩動物看護師として働く自覚をもつ。

看護視点を意識して、看護動物に合わせた看護計画・実践を行う。

科	動物看護師学科	きょういん 教員	梶 英美子
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2 年	ねんかんとんいじかん 年間単位時間	35×2 コマ

目標

前期

臨床現場における愛玩動物看護師としての身だしなみ・意識の定着

衛生管理意識の定着

後期

看護動物の状態を理解し、看護動物に合わせた看護管理ができる

授業計画

- 1 回 看護実習における身だしなみ、看護師意識、動物福祉
- 2 回 衛生管理 1 (医療廃棄物・バイオハザードマーク)
- 3 回 衛生管理 2 (感染)
- 4 回 衛生管理 3 (消毒)
- 5 回 衛生管理 4 (院内清掃・スタンダードプリコーション)
- 6 回 衛生管理 5 (隔離管理・ゾーニング)
- 7 回 衛生管理 6 (隔離管理・ゾーニング)
- 8 回 診療記録 (動物看護記録)
- 9 回 診療記録 (動物看護記録)
- 10 回 入院管理 1 (看護過程・アセスメント・手続き)
- 11 回 入院管理 2 (入院舎選択・排泄・衛生・食事管理)
- 12 回 校内で実践するスタンダードプリコーション啓発ポスター作製
- 13 回 一次救命 (CPR) を飼い主様が分かるポスター作製
- 14 回 感染動物受診時の看護対応マニュアル作成
- 15 回 前期復習
- 16 回 前期期末試験
- 17 回 前期期末試験返却・解説
- 18 回 栄養管理 1 (栄養素・食性)
- 19 回 栄養管理 2 (給餌) (栄養状態の評価)
- 20 回 栄養管理 3 (経管栄養法 1 看護計画)
- 21 回 栄養管理 4 (経管栄養法 2 看護実践)
- 22 回 栄養管理 5 (経管栄養法 3 看護評価)
- 23 回 インターン

- 24 回 インターン
- 25 回 食事管理（ライフステージ別・疾患別食事管理・療法食）
- 26 回 褥瘡管理 1（褥瘡とは）
- 27 回 褥瘡管理 2（看護過程・計画）
- 28 回 褥瘡管理 3（看護過程・実践）
- 29 回 課題 看護課題 1「体重管理指導計画」
- 30 回 課題 看護課題 2「介護動物の褥瘡予防看護計画」
- 31 回 後期復習
- 32 回 後期期末試験
- 33 回 後期期末試験返却・解説
- 34 回 看護課題 1 看護計画発表（グループワーク）
- 35 回 看護課題 2 看護計画発表（グループワーク）

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

座学・実習・グループワーク

きょうざい 教材

エドワードプレス・自作プリント

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん 期末試験80%
 提出物 10%
 じゅぎょうたいど 授業態度10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

テキストの予習・復習

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係

あり。臨床現場で見られる内容を反映・自身の体験を提供。

動物看護総合実習

(授業概要)

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、学内で学んだ内容を統合する。また、診療施設の概要や機能について学ぶとともに、獣医師、動物看護師との連携や顧客対応を通じ、愛玩動物看護師としての役割や責任を理解する。

科	動物看護師学科	教員	楠本恵美子
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	35×2 コマ

目標

前期

後期の一斉インターンへ向け、動物病院等の基礎情報について自主学習に取り組む

後期

実際の動物診療施設での診療業務に参加し、その成果をレポートとして整理報告することができる

授業計画

- 1～7 回 インターン実習1日目（日誌・レポート）
- 8～14 回 インターン実習2日目（日誌・レポート）
- 15～21 回 インターン実習3日目（日誌・レポート）
- 22～28 回 インターン実習4日目（日誌・レポート）
- 29～35 回 インターン実習5日目（日誌・レポート）

授業の方法

実習

教材

なし

評価の方法

試験評価（実習レポート、実習先からの評価シート）80%、実習日誌 20%

授業外での学習方法

特になし

実務経験と授業科目の関係

あり

グルーミング概論実習Ⅱ

(授業概要)

ショー犬のグルーミングの意義を理解し、グルーミング技術及び保定技術の向上を目指す。

1人1頭完璧にグルーミングをこなせるようになる。

中型・大型犬種のグルーミング、保定技術を学ぶ。

科	動物看護師学科	教員	坂本 亜由美
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	35×4コマ

目標

前期

1日で1人1頭グルーミングをこなす。

チワワ→90分、パピヨン・ダックス→105分でベーシックが行えるようにする。

時間を意識しながら犬に負担がかからない保定技術を習得する。

後期

ベーシックマスターライセンスの取得を目指す。

全体で時間を計り各自で時間配分を意識し実習を行う。

授業計画

- 1回 グルーミング実習（2～3人で1頭）
- 2回 グルーミング実習（2～3人で1頭）
- 3回 グルーミング実習（2～3人で1頭）
- 4回 グルーミング実習（2～3人で1頭）
- 5回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 6回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 7回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 8回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 9回 グルーミング実習（2人で1頭）・モデルグルーミング（飛節・手根球下カット）
- 10回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 11回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 12回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 13回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 14回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 15回 グルーミング実習（2人で1頭）
- 16回 グルーミング実習（1人で1頭）
- 17回 グルーミング実習（1人で1頭）
- 18回 グルーミング実習（1人で1頭）

- | | |
|-----|----------------------------|
| 19回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 20回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 21回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 22回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 23回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 24回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 25回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 26回 | グルーミング実習・ライセンス試験（2回に分けて行う） |
| 27回 | グルーミング実習・ライセンス試験（2回に分けて行う） |
| 28回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 29回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 30回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 31回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 32回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 33回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 34回 | グルーミング実習（1人で1頭） |
| 35回 | グルーミング実習（1人で1頭） |

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

ブリーダー犬、一般犬を用いての実技実習

きょうざい
教材

グルーミングマニュアル

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物看護師ゼミ演習Ⅰ

(授業概要)

面談でコミュニケーションを取りよりよい動物看護師になるにはどうすればいいのかをアドバイスする。

科	動物看護師学科	きょういん 教員	楠本 恵美子
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	35

目標

前期

実習の所作を習得し、個人面談で学生と理解を深めあう。
同時に履歴書の書き方を習得する。

後期

面接の受け方を指導し、実際面接のシミュレーションを行いながら実践に生かせるよう指導し
学生とコミュニケーションを取ることで、より実践に生かせるよう指導していく

授業計画

- 1回 自己紹介、授業について
- 2回 卒研話し合い・面談
- 3回 卒研話し合い・面談
- 4回 卒研テーマ・メンバー発表
- 5回 卒研テーマ・メンバー発表
- 6回 履歴書の書き方について
- 7回 個人面談・履歴書作成
- 8回 個人面談・履歴書作成
- 9回 個人面談・履歴書作成
- 10回 個人面談・履歴書作成
- 11回 個人面談・履歴書作成
- 12回 履歴書き方途中評価
- 13回 小テスト
- 14回 個人面談・履歴書作成
- 15回 個人面談・履歴書作成
- 16回 履歴書作成振り返り

- | | |
|------|--------------|
| 17 回 | 前期期末試験 |
| 18 回 | 前期期末試験返却 |
| 19 回 | 現時点での不安感聞き取り |
| 20 回 | 動物病院での生き抜き方 |
| 21 回 | 面接対策について |
| 22 回 | 面接シミュレーション |
| 23 回 | 面接シミュレーション |
| 24 回 | 面接シミュレーション |
| 25 回 | 一斉インターン実習 |
| 26 回 | 一斉インターン実習 |
| 27 回 | 面接シミュレーション |
| 28 回 | 面接シミュレーション |
| 29 回 | 面接シミュレーション |
| 30 回 | 面接シミュレーション |
| 31 回 | 小テスト |
| 32 回 | 小テストの解説 |
| 33 回 | 個人面談 |
| 34 回 | 年間の振り返り |
| 35 回 | 後期期末試験 |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法
座学

きょうざい 教材
特になし

ひょうか ほうほう 評価の方法
授業態度 80%、平常点 20%（ しゅっせきりつ 出席率、 じゅぎょうたいど 授業態度等）

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい 実務経験と授業科目の関係
あり

コンピューター実習Ⅱ

（授業概要）

本講義では、Microsoft Excel のデータベース機能と応用関数について学習し、基礎的なデータベースの管理と分析が行えるようになることを目的とする。また PowerPoint を用いて、基本的なプレゼンテーションスライド作成ができるようになることを目的とする。

科	動物看護師学科	教員	大西 望
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位時間	35

目標

前期

Microsoft Excel を使用して、データベース機能と応用関数を用いた管理と分析が行える。

後期

Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションスライドの作成が行える。

授業計画

- 1 回 授業概要
- 2 回 タイピング、Excel 基礎、画面構成
- 3 回 Excel1 年次復習（1） 基本関数・表作成・グラフ
- 4 回 Excel1 年次復習（2） 基本関数・表作成・グラフ
- 5 回 テーブル機能、並び替え、フィルタ
- 6 回 ピボットテーブル（1）
- 7 回 ピボットテーブル（2）
- 8 回 ピボットグラフ
- 9 回 応用関数（1）；IF
- 10 回 応用関数（2）；IF、AND、OR、関数のネスト
- 11 回 応用関数（3）；VLOOKUP、HLOOKUP
- 12 回 応用関数（4）；文字列操作関数
- 13 回 条件付き書式、入力規則
- 14 回 課題（1）
- 15 回 前期復習
- 16 回 確認テスト
- 17 回 確認テスト振り返り（前期最終）
- 18 回 後期授業概要、PowerPoint 概要（後期初回）
- 19 回 PowerPoint 基本操作、画面構成、スライドショー
- 20 回 テンプレート、新規プレゼンテーションの作成、レイアウト
- 21 回 テーマ設定、テキストの入力と編集
- 22 回 フォント設定、箇条書き、行間の設定
- 23 回 表の作成と編集（1）

24 回 表の作成と編集（２）
25 回 グラフとオブジェクト（１）；グラフ・図形・SmartArt
26 回 グラフとオブジェクト（２）；画像・ワードアート
27 回 アニメーションと画面切り替え効果
28 回 スライドショーの設定，サポート機能
29 回 課題（２）
31 回 個人課題Ⅰ（１）；テーマ設定・情報収集
32 回 個人課題Ⅰ（２）；プレゼンテーション作成
33 回 個人課題Ⅰ（３）；プレゼンテーション作成，リハーサル
34 回 個人課題Ⅰ（４）；発表
35 回 個人課題Ⅰ（５）；発表予備，相互評価と振り返り（後期最終）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

コンピューター演習

きょうざい
教材

教科書なし．参考資料を適時配布する．

ひょうか ほうほう
評価の方法

授業中の取り組み態度 10%，課題提出 40%，テスト 50％

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

予習 1h，復習 1h

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

比較動物学

(授業概要、目的)

動物比較学は、犬・猫を中心とした愛玩動物の解剖・生理的特徴を基盤に、産業動物、実験動物、野生動物など多様な動物種と比較することで、それぞれの生活様式・行動特性・進化的背景を理解する学問である。本授業では、動物の形態・機能・行動・生態の多様性を体系的に学び、獣医療や愛玩動物看護において必要となる「種差の理解」を習得することを目的とする。

科目	動物看護師学科	教員	三輪
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	35

目標

前期

- 動物分類の基本と主要動物群（哺乳類・鳥類・爬虫類など）の形態的・生理的特徴を理解する。
- 犬猫を基盤に他動物との比較を通じて、形態・機能の多様性を把握できる。

後期

- 動物の行動・生態・適応の違いを理解し、人と動物の関わりや飼育管理への応用を考えられる。
- 動物比較の知識を臨床現場や看護に活かし、飼い主説明や適切なケア選択につなげる力を養う。

授業計画

- ガイダンス：動物比較学の目的と全体像、学習方法
- 動物分類学の基礎（系統分類・進化・種の定義）
- 無脊椎動物の概観（節足動物・軟体動物）と脊椎動物との比較
- 魚類の特徴と生活様式（呼吸・循環・感覚器）
- 両生類の特徴と陸上適応
- 爬虫類の特徴（体温調節・鱗・繁殖様式）
- 鳥類の特徴（飛翔適応・呼吸器構造）
- 哺乳類の分類と特徴（有袋類・単孔類を含む）
- イヌ科・ネコ科の形態学的特徴と比較
- ウサギ・げっ歯類の特徴（歯式・消化機能・行動特性）
- ウマ・ウシなど草食動物の消化器比較
- ブタ・小型反芻獣の比較と応用
- 実験動物（マウス・ラット・モルモットなど）の特徴
- 野生動物と飼育下動物の比較（生態・行動面）
- 前期まとめ演習（小テスト・事例検討）
- 前期期末試験
- 前期期末試験返却・解答・解説
- 動物行動学入門：行動比較の視点
- 食性と消化器の進化的適応
- 繁殖様式の比較（胎生・卵生・子育て戦略）

- | | |
|------|------------------------------|
| 21 回 | 感覚器の比較（視覚・聴覚・嗅覚） |
| 22 回 | 脳と神経系の比較（高次機能・学習能力） |
| 23 回 | 体温調節と代謝戦略（恒温・変温） |
| 24 回 | 社会性と群れの構造（群れ動物・単独生活動物） |
| 25 回 | 飼育環境と行動変化（ストレス・適応） |
| 26 回 | 比較免疫学（自然免疫・獲得免疫の種差） |
| 27 回 | 比較病理学（疾患感受性・種差による症状の違い） |
| 28 回 | 人と動物の関係史（家畜化・伴侶動物化の進化） |
| 29 回 | 動物看護に必要な種差理解（犬猫と他動物の看護上の留意点） |
| 30 回 | 飼い主指導に役立つ動物比較の知識 |
| 31 回 | まとめ演習Ⅰ（総合問題演習・グループ討議） |
| 32 回 | まとめ演習Ⅱ（事例発表・ディスカッション） |
| 33 回 | 後期まとめ・国試過去問演習 |
| 34 回 | 後期期末試験 |
| 35 回 | 後期期末試験返却・解答・解説 |

じゅぎょう ほうほう 授業の方法

講義、問題演習

きょうざい 教材

エドワードプレス愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6 巻

ひょうか ほうほう 評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど 期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう 授業外での学習方法

レポート

じつむけいけん じゅぎょうかちく かんけい 実務経験と授業科目の関係

あり
